

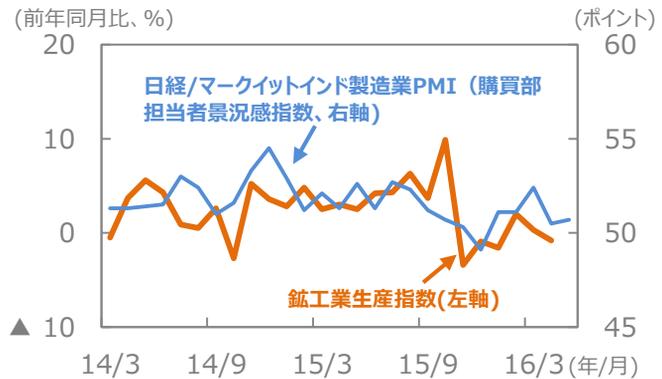
今日のトピック 最近の指標から見るインド経済（2016年6月）

平年以上の雨量が見込まれ、年後半景気は上向きへ

ポイント1 生産は前年比マイナスに転換 年後半景気は上向きへ

- 16年4月の鉱工業生産指数は前年同月比 ▲0.8%と3カ月ぶりのマイナスに転じました。資本財と非耐久消費財が減少しました。非耐久消費財は、干ばつで消費者の購買意欲が減退したことが、生産の押し下げ要因になったと考えられます。一方、16年5月の製造業の景況感は50.7と前月の50.5とほぼ同水準となり、悪化していません。
- 今後は、公務員賃金の引き上げに加え、モンスーンにより、景気回復が見込まれます。平年以上の降雨が農村部に居住する消費者の購買意欲を回復させると期待されます。年後半の景気は消費の回復を背景に上向くと見込まれます。

【鉱工業生産指数と製造業PMI】

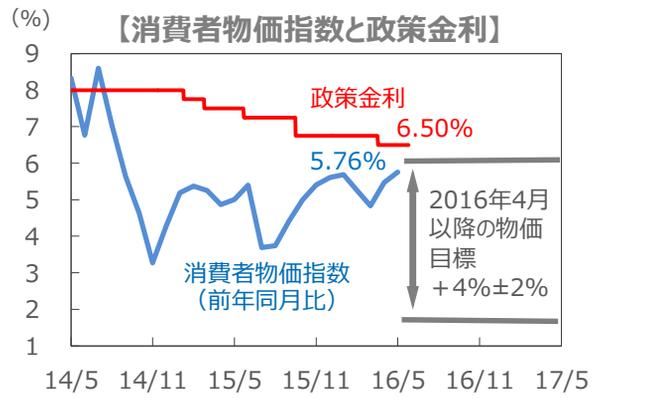


(注) 鉱工業生産指数は2014年3月～2016年4月。
日経/マーケットインド製造業PMIは2014年3月～2016年5月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価は2カ月連続で上昇 引き続き食品価格の上昇が寄与

- 16年5月の消費者物価指数は前年同月比 +5.76%と2カ月連続で上昇し、インド準備銀行(RBI、中央銀行)が金融政策の目標とするレンジ(+2%～+6%)の上限に近づきました。品目別では、前月に続き、食品の中の野菜の伸びが前年同月比+10.8%と加速したことも要因です。干ばつが主因と思われる。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 政策金利は2014年5月1日～2016年6月14日。
消費者物価指数は2014年5月～2016年5月。
(出所) Bloomberg L.P.、インド準備銀行(RBI)のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 政策金利は年内据え置き

- 今年のモンスーン期(6-9月)は平年以上の雨量が見込まれています(気象庁は平年比+6%、民間予報機関は同+9%の予想)。予想通り雨が降れば、食品インフレは鈍化すると思われる。
- 第7次公務員給与委員会の人件費引き上げ勧告

による住居費の上昇や、内需拡大を背景に、基調的なインフレは年後半にかけて高まっていく見通しです。ただ、食品インフレが鈍化することによって物価はレンジ内での推移が可能と思われます。政策金利は年内据え置かれると考えられます。

ここもチェック! 2016年 6月 8日 インドの金融政策(2016年6月)
2016年 4月 26日 国会で「破産法」成立か?(インド)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。